

地球にECO(いーご)としよう



省エネグループ通信



川崎市制90周年記念表彰

省エネグループが奨励賞を受賞、永年の活動に対する評価

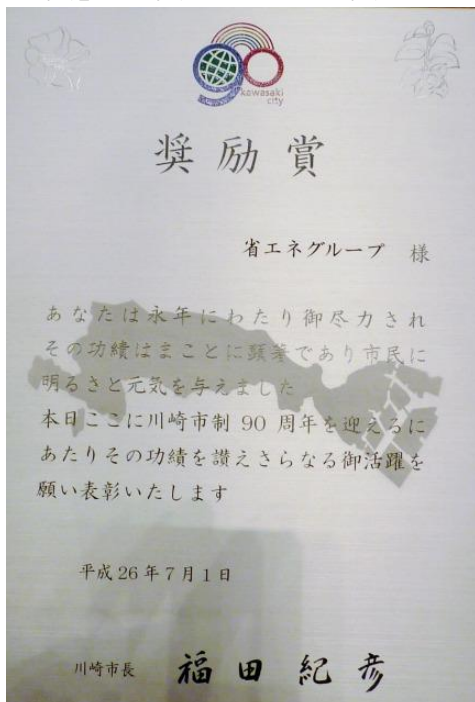
川崎市は 1924 年 7 月に川崎町・御幸村・大師町が合併しておよそ 5 万人の小さな町として川崎市が誕生して以来、国際的な大都市へと発展し、今日では 145 万人を数えるに至り、市制 90 周年を迎えました。式典は 7 月 1 日(火)午前 10 時からミュージア川崎シンフォニーホールで行われました。坂戸小学校児童による合唱でスタートし、公害問題など 90 年を振り返る映像が流され、そのあと福田市長の式辞や浅野川崎市議会議長と黒岩神奈川県知事の挨拶がありました。

今回の表彰は奨励賞・功労賞・特別賞・川崎市特別功労賞がありましたが、その中で省エネグループは「市民生活向上に積極的な取り組みをした」ことが認められ、「奨励賞」を受賞しました。受賞者は川崎市特別功労賞の阿部孝夫前市長や横田めぐみさんのご両親横田滋さん早紀江さんを支援する市民団体「あさがおの会」など個人 24 人と 84 団体でしたが、身近で活動する仲間では「NPO環境紙芝居エコ

座」や「かわさき市民共同おひさまプロジェクト」が一緒に表彰されました。表彰の記念には写真のような立派な盾をいただきました。

福田市長の式辞は「公害問題を克服し世界のモデルとなるような環境都市を生み出すことができた。チャレンジ精神こそが川崎らしさである。少子・高齢化の進行、技術革新、情報化の進展、産業構造の変化、地球環境問題など、かつて経験したことのないような、社会・経済の転換期に直面している」ことをあげ、成長と成熟の調和による持続可能な「最幸の町かわさき」を目指して、市民が誇りと愛着を持てる街をつくろうと呼びかけられました。

これを機会に省エネグループの活動は、川崎をより発展させ、誇りと愛着をもてる環境都市川崎の実現のため、地球温暖化防止のための省エネ意識の普及啓発活動を継続していきたいと、誓を新たにしました。皆さんと一緒に「真の環境都市川崎」を目指しましょう。



八木代表が盾をいただいた

省エネグループの活動状況

出前授業 協働が実現

新年度を迎えるに当たり、プログラムの内容を見直して、最新情報等取り入れました。また、企業との協働の可能性を模索した結果、出前授業の実績のあるT社との協働が実現し、「地球温暖化模型」の借用ができ、出前授業時の体験内容を充実させることが出来るようになりました。



地球温暖化模型

環境局地球環境推進室経由で、市内 113 校に対して、出前授業希望の有無のアンケート調査票を送付しました。7 月末までに、11 校の小学校から要請が来ました。また、県の学校派遣事業の関係から小学校 1 校、県立高校 1 校から 10 月～12 月での実施要請がありました。嬉しい悲鳴です。

夏休み前の実施を希望された 6 校に対して、事前打合せを行い、学校の希望を受けて一部プログラムの内容を修正したりして出前授業を行いました。講義は全てクラス別に実施しました。2 テーマを希望した 3 校では、2 日に渡り、または 1 日で 90 分授業で対応しました。

希望したプログラムは下記の通りです。

- ・はっぱはえらい 1 校
- ・温暖化とは 3 校、
- ・節電に取り組もう 3 校
- ・エネルギーとは 1 校

また、「地球温暖化模型」を使つての CO2 の影響を調べる実験では、気温が高くなることを実際に計測してもらい、子ども達に温暖化の現象を一層理解してもらうことができました。

夏休み明けの 8 月末から出前授業を再開します。一方、7 月までに希望の有無アンケート未回答の学校へ 9 月に後期のご案内を送付する予定です。

学校以外では、「地球温暖化」、「節電」などに関して、プラザ田島、プラザ橘で、小学生、中学生、大人までの出前授業及び発電体験、燃料電池の工作体験などを行いました。参加された受講生は、熱心に講義を聞いた頂き、その後のいろいろな体験にも真剣に且つ楽しく取り組んだ姿が印象的でした。

出前授業をご希望の学校や町内会等は、是非声を掛けて下さい。



イベント ～参加企画テーマ“見て！触れて！感じて！”～

今夏は国際交流センター、生田緑地など 5 か所のイベントに参加しました。ブースの来訪者も延 1080 人ほどで、それぞれおもしろい体験を楽しんでもらいました。小さい子は簡単に点灯する LED に歓声を上げ、白熱電球では歯を食いしばって頑張る姿や果ては保護者の力を借りて点灯させ一緒に喜ぶ微笑ましい光景がみられました。大きい子や大人たちは LED、蛍光灯、白熱電球それぞれの耐久性・経済性を実感し、中には“最近部屋の照明を全て LED に取り替えたので、電気代の結果を楽しみにしています”とのコメントをくれた方もいました。嬉しいですね！



模型を使った燃料電池の仕組みや環境に優しいエネルギーの創出方法などには関心が高く、熱心に説明に聞き入り見学していかれた方が多数いました。

夏休みのエコライフチャレンジ

今年度は最高の希望者数

昨年度、通年型の「エコライフチャレンジ」をトライしました。その成果を受け、今年度(2014年度)は「夏休みのエコライフチャレンジ」と通年型の「エコライフ・チャレンジ」の2本立てで行います。

夏休みのエコライフチャレンジ参加人数は7月時点で29校、3,088名の希望人数で、実施人数(チャレンジ用紙を返却した人数)は、昨年度と同じ比率(43%)とすると1,300名超となり、大幅な増加を期待しています。希望人数増加の理由は、「1校1校きめ細かく呼びかけた」ことにあります。今年度は、6月30日の実施有無のアンケート締め切りの追い込みとして、アンケートの回答がないが、これまでに実施実績のある36校などに対して、直接電話連絡をし、夏休みのエコライフチャレンジ参加を呼びかけました。改めて内容や特徴を説明した結果、多くの学校の参加を得ることができました。

実施方法のうち、主に2点の改善を行いました。一つ目は、より児童がやりやすくなり、自分

の実施結果がわかるように、夏休みのエコライフチャレンジのチャレンジ用紙を改定し、自己評価が実施後にすぐできるようにしました。11項目のエコライフチャレンジメニューを1週間実施すると、77個の評価個数があるので、これを○、△、×の判定により、○の数の合計として見られるようにしました。ちなみに○の数合計50以上が「よくできた」です。

二つ目は、省エネチャレンジメニューのうち9項目は、共通項目であり、これらはすべてCO2(二酸化炭素)削減量が計算できるものを選び、CO2削減量をより正確に把握できるようにしました。

なお、通年型の「エコライフチャレンジ」の募集は、9月以降に行います。ぜひご参加をお願いします



夏休みのエコライフ・チャレンジをしてみよう!

エコライフ・チャレンジメニュー	よくできた人「○」							少しできた人「△」			できなかった人「×」			合計	チャレンジ 取り組み(アドバイス)
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	○	△	×	○	△	×		
1. 冷房は28℃にしよう															設定温度を27℃から1℃上げると約30%の削減になるよ 室温が25℃以下ならクーラーは必要ないよ
2. テレビは必要なくきだけつける(1時間毎)															画面が暗い状態の時は電源を切るよ 電源が切れてから1分待たないと再起動するよ
3. 使わない部屋の灯かりはこまめに消そう															廊下の照明はだけごうつげ びやち多いよ
4. 冷蔵庫の開け閉めは、早くし、開ける時間を少なくしよう															冷蔵庫を開ける時、扉をすか けて早く閉めておくよ
5. 使わない電気製品は、コンセントから抜こう															テレビなどコンセントにつな がれて電気が流れるよ
6. 洗濯物を干すときは風通しをよくしよう															部屋と乾燥になるよ
7. 食器を洗うときは水道に設定しよう															節水のガス代の節約になるよ
8. シャワー、ハミガキ、洗濯は水を溜めて洗おう															コップに水をためてつうに 洗えばいいよ
9. お風呂に水をためて入ろう															湯いぼをしないから、ガス代 節約になるよ
10.															たこえび ・ボイラーはしない ・レンジは使わない ・そうじは早くしよう
11.															

夏休みの自由研究 大盛況!

炎天下の8月20日(木)午後2時より川崎市地球温暖化防止活動センターにおいて、夏の定番イベント「夏休み自由研究週間」へ省エネルギーグループは今年も参加致しました。

私達のテーマは「身近なもので電池を作ってみよう」で、定員を超える応募があり抽選で25人の3年生から6年生の子ども達と保護者に参加して頂きました。

全体説明の後「体験コーナー」で発電の仕組みや大変さを勉強し、本番の「電池作り」に取り掛かりました。

電池の材料は、身近にあるスプーンやアルミオイル・塩分を含ませたペーパータオル、また、別の材料としてバナナ・レモンの果物やトマト・人参・大根等の野菜を使って次々と実験を始めました。子ども達は電池が完成する度にオルゴールが鳴る様子に目を白黒させ楽しんでくれました。また、保護者の中には、熱心にメモを取っておられる姿があり感心致しました。

電気ができる仕組みや電気の大変さ・節電や省エネルギーについて少し理解してもらえたのではないのでしょうか。私達の活動は小さなものですが、今回参加してくれた子ども達が大人になって、地球の事を考える時がくるのが私達の喜びです。今後も小さな活動ではありますが続けて行きたいと思えます。



青森市センターと交流しました！

川崎市地球温暖化防止活動推進センターの紹介で、青森市地球温暖化防止活動推進センター職員3名と青森市地球温暖化防止活動推進員1名が、定例会に参加されました。

お互いの活動紹介の後、日頃の活動状況についての意見交換を行いました。省エネグループメンバーの多くは、仕事をリタイアした後、ボランティアとして活動に参加していますが、青森市センターの方々は、みなさんとても若い！ 私たちは、「青森市センターの若さ」がうらやましかったのですが、青森市センターの方々は、「エネルギーに活動している省エネグループに圧倒された」とおっしゃっていました。とくに話題の中心になったのは、当グループ

が10年以上前から取り組んでいる「環境出前授業」と「エコライフチャレンジ」。広報の仕方、資料の作り方等、踏み込んだ内容の質問も多く、私たちもとても勉強になりました。定例会後の懇親会も盛り上がったのは…言うまでもありません！



前列の右から4名が青森市センターの皆様

イベント後の交流会に参加して！

環境総合研究所で8月11日に開催された「夏の科学イベント」の終了後に産・官・民の出展者が一同に会した交流会が設けられ、省エネグループも参加しました。他の出展者と貴重な意見交換ができ、有意義な交流会でした。

その中で三浦副市長、小林環境局長と意見交換する機会があり、市が計画している「水素発電所」の実現性についての話を聞くことができました。今年の国家戦略特区のリストには入らなかったが、引き続き特区に認定されるように働きかけ、確実に実現していくとの心強いお話を伺うことが出来ました。過去の公害を克服してきた川崎市が、世界に先駆

けての水素発電所の実用化は、クリーンな次世代エネルギーを確保し、国内外へ川崎の環境技術の高さを世界に知らしめる絶好の機会となり得るとの確信を受けました。実現が待たれます。



左端が三浦副市長、右から二人目が小林環境局長

—ご意見をお寄せください—

本紙に対する、ご意見、ご要望、ご感想、更には皆様のエコ情報・体験などを下記へお寄せください。皆様と共に、地球環境を維持するため、「楽しく、かつよく、得する」エコを実践していきたいと思っています。

連絡先

川崎市地球温暖化防止活動推進センター 省エネグループ
〒213-0001 川崎市高津区溝口1-4-1 ノクティ2 高津市民館内
TEL 044-813-1313 FAX 044-813-1350
E-mail : office@kwccca.com

ホームページ : <http://syo-ene-group.sunnyday.jp/homepage/>

発行責任者: 省エネグループ代表 八木洋一

